

筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター

令和9年度 植物研究拠点アライアンス (Plant Science Core Alliance: PSCA)

プラチナ枠による共同研究課題公募要項

植物研究拠点アライアンス (Plant Science Core Alliance; PSCA) は、文部科学省認定の共同利用・共同研究拠点の内、主として植物の研究を実施する拠点が連携し、植物研究を強化するために設置された拠点連合です。PSCAに参加する5拠点は次のとおりです。

- ・筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター「形質転換植物デザイン研究拠点」
- ・大阪公立大学附属植物園「過去に学び未来を拓く植物多様性保全研究・教育拠点」
- ・鳥取大学乾燥地研究センター「乾燥地科学拠点」
- ・岡山大学資源植物科学研究所「植物遺伝資源・ストレス科学研究拠点」
- ・琉球大学熱帯生物圏研究センター「熱帯生物圏における先端的環境生命科学共同研究拠点」

PSCAの詳細はホームページをご覧ください。<https://psca-jurc.com/>

PSCAでは、「アライアンス・プラチナ枠」による共同研究を開始します。「アライアンス・プラチナ枠」は、申請者が2拠点以上の対応教員とチームを組み、それらの拠点の特長を生かして、設置された施設・設備を利用して行う共同研究です。

つくば機能植物イノベーション研究センターでは、「アライアンス・プラチナ枠」としての一般研究を募集します。

なお、「アライアンス・プラチナ枠」は、公募の時期や締め切りが、従来の共同研究公募と異なっていますので、ご注意ください。

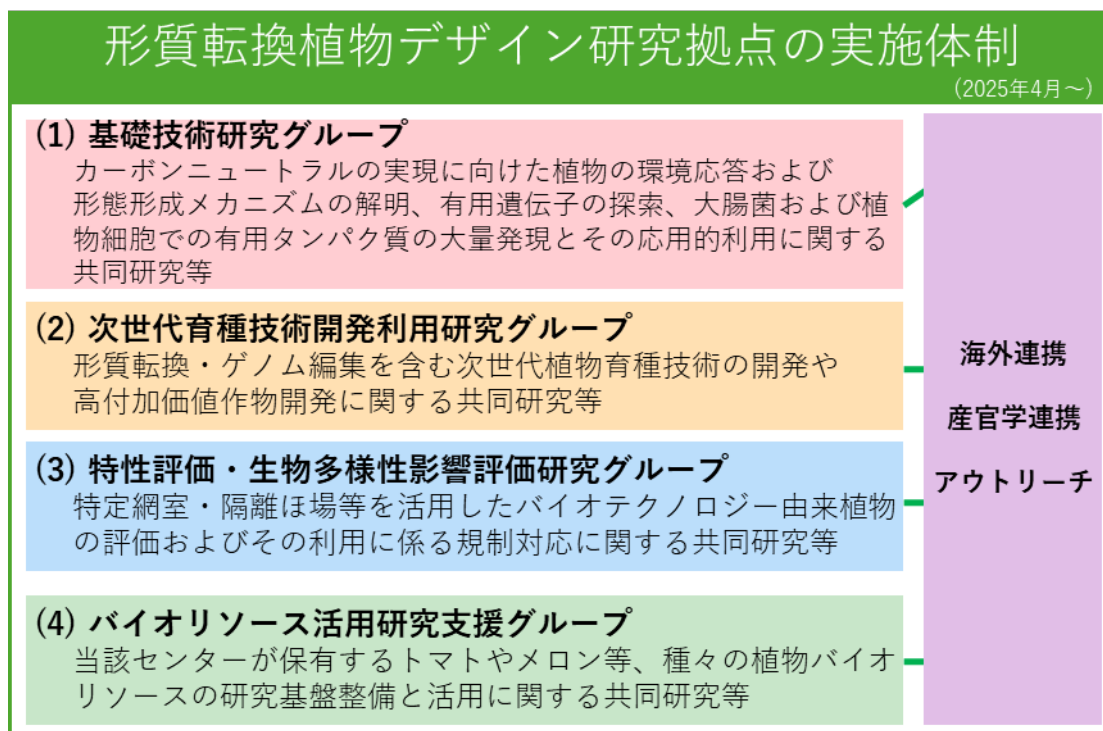
ご不明の点があれば下記アドレスまで電子メールでお問い合わせください。

E-mail: ptrad@un.tsukuba.ac.jp

1. 公募する共同研究テーマ

つくば機能植物イノベーション研究センターが実施している形質転換植物に関する基盤研究から情報発信に至る4つの部門に係る研究、かつ植物研究拠点アライアンス2拠点以上の施設・設備を利用した研究。

1-1. 筑波大学



(1) 基礎技術研究グループ【研究グループ長：壽崎 拓哉】

本研究グループでは、植物の環境応答および形態形成メカニズムの解明と有用遺伝子の探索を行います。これらの研究推進により、植物科学の立場からカーボンニュートラル社会の実現に資する成果を得ることを目指します。植物と根粒菌の共生現象をはじめとする植物微生物共生の仕組みの解析に特に注力し、その分子機構と進化基盤を解明します。また、植物における機能物質の産生・蓄積のメカニズムの解明と有用遺伝子の探索を行います。さらに、これら有用タンパク質を植物体内で発現させることで、その機能解析と応用的利用に取り組みます。さらに、タンパク質科学的手法を用いた植物の転写因子等の機能を解明や、低温プラズマ照射が植物の成長および環境応答に及ぼす影響と、その遺伝子発現制御機構の解明にも取り組みます。本研究グループでの共同利用・共同研究では、シロイヌナズナ、トマト、ミヤコグサを主とした変異体のスクリーニング、ノックアウト植物の作成、遺伝子発現解析、大腸菌および植物細胞でのタンパク質の大量発現、メタボローム解析、細胞壁成分分析、イメージング、タンパク質-タンパク質、タンパク質-DNA相互作用解析、タンパク質立体構造決定等に関する技術支援が可能です。

(具体的な共同利用・共同研究)

- ① 植物の形態や環境応答制御及び植物-微生物相互作用に関わる実用遺伝子探索
- ② 植物における機能物質生産に関わる有用遺伝子探索
- ③ 植物内にてタンパク質の大量発現とその精製

(2) 次世代育種技術開発利用研究グループ【研究グループ長：野中 聡子】

本研究グループでは、新規植物形質転換技術及びゲノム編集技術を含む新しい植物育種技術の高度な利活用を念頭に、新規機能付与による作物へ高付加価値に関連した研究を行います。具体的には植物・微生物・動物等で単離・同定された各種有用遺伝子を対象に作物等へ導入・発現制御して形質の評価を行います。産業界とも積極的に連携しながら形質転換技術利用の可能性を広げていくことを目指します。

本研究グループでの共同利用・共同研究では、様々な植物の遺伝子導入技術及びゲノム編集技術を含む新しい植物育種技術の利用に関する支援が可能です。また、遺伝子の発現調節、遺伝子発現レベルの解析、遺伝子組換え体の基本評価試験等の支援が可能です。

(具体的な共同利用・共同研究事例)

- ① 植物への効率的・効果的な遺伝子導入技術・発現制御技術の開発
- ② ゲノム編集技術を含む新しい植物育種技術の開発
- ③ 有用物質を蓄積する作物新品種の作出と安全性・特性評価
- ④ 収量性、耐病性、栽培・加工適性等に関連した高付加価値形質を有する作物新品種の作出

(3) 特性評価・生物多様性影響評価研究グループ【研究グループ長：小口 太一】

本研究グループでは、T-PIRCが保有する特定網室や隔離ほ場等の組換え体評価施設を活用した形質転換技術を含むバイオテクノロジー由来植物の特性や生物多様性影響に関する評価研究を行います。さらに、バイオテクノロジー由来植物の個別の特性に応じた生物多様性影響評価手法、栽培・管理体系整備を課題とします。また、バイオテクノロジー由来植物の評価技術、及び管理技術に必要な科学的知見の基盤集積に基づき、バイオテクノロジー由来植物の第一種使用等に係る規制対応や規制策定、研究推進に係るノウハウを提供します。

本研究グループでの共同利用・共同研究では、特定網室での栽培試験、第一種使用規定承認申請等に向けた総合評価、及び文書の作成、隔離ほ場での生物多様性影響評価、及び特性評価等の技術支援が可能です。

(具体的な共同利用・共同研究)

- ① 特定網室や隔離ほ場における遺伝子組換え植物の栽培・管理手法の事例構築
- ② 屋外植栽を念頭に置いた遺伝子組換え植物の栽培・管理手法の事例構築
- ③ 生物多様性影響評価の新規応用開拓、簡素化など技術開発
- ④ 生物多様性影響評価について形質転換植物評価技術及び管理技術の基盤確立に関する研究

- ⑤ 導入遺伝子の環境拡散リスク評価、拡散防止技術の開発に関する研究
- ⑥ 遺伝子組換え植物の環境影響評価に関する国際比較と情報発信
- ⑦ バイオテクノロジー由来植物の社会受容促進に向けた効果的手法の開発と実践

(4) バイオリソース活用研究グループ【研究グループ長：福田 直也】

本研究グループでは、当該センターが保有するトマトやメロン等、種々の生物遺伝資源の開発、維持、保存、ゲノム解析といった研究基盤整備及びそれを利用した研究開発を行います。本研究グループでの共同利用・共同研究では、保有している生物遺伝資源を活用して、重要形質（果実の肥大特性や着果率、機能性代謝産物の産生と蓄積、環境応答や病原性微生物に対する抵抗性、植物ホルモン応答など）改良の研究や、形質改良に向けたデジタルフェノタイピング等の新技術開発あるいはゲノム解析研究の支援が可能です。また、このグループでは生物遺伝資源に関する各種情報・資料等の提供を行います。

(具体的な共同利用・共同研究事例)

- ① マイクロトム変異体を活用したゲノミクス・分子遺伝学的研究
- ② 逆遺伝学的手法によるマイクロトム変異体の選抜
- ③ マイクロトムを含むトマトバイオリソースを活用した組換え体・ゲノム編集系統の作出
- ④ モデル作物の新規リソースの研究基盤整備

(5) その他

形質転換技術を含むバイオテクノロジー植物のデザインに関わるその他の研究テーマに関する共同利用・共同研究（事前にメールptrad@un.tsukuba.ac.jpにてご相談ください）。

1－2. 植物研究拠点アライアンス：大阪公立大学、岡山大学、鳥取大学、琉球大学

各拠点の募集する共同利用・共同研究テーマについては 下記HPを参照すること

- ・ 大坂公立大学附属植物園「過去に学び未来を拓く植物多様性保全研究・教育拠点」
<https://www.omu.ac.jp/bg/research/offering/>
- ・ 鳥取大学乾燥地研究センター「乾燥地科学拠点」
<https://www.alrc.tottori-u.ac.jp/japanese/activity/kyoudo/platinum.html>
- ・ 岡山大学資源植物科学研究所「植物遺伝資源・ストレス科学研究拠点」
<https://www.rib.okayama-u.ac.jp/collaboration/plant-science-core-alliance/platinum/>
- ・ 琉球大学熱帯生物圏研究センター「熱帯生物圏における先端的環境生命科学共同研究拠点」
<https://tbc.skr.u-ryukyu.ac.jp/>

2. 申請区分

アライアンス・プラチナ枠（Pタイプ）

申請を希望する拠点の組み合わせで予算上限額は決まります。

（各拠点における1件当たりの申請上限額）

筑波大学	40万円
大阪公立大学	30万円
鳥取大学	40万円
岡山大学	30万円
琉球大学	20万円

（※例：筑波大学と琉球大学の2拠点に申請の場合、予算上限額は60万円になります）

3. 申請資格者

申請をする研究代表者は、国公立大学、公的研究機関に所属し、形質転換植物デザインに関わる研究に従事する教員・研究者とします。なお、自身が所属する拠点に対して申請することはできません。また、大学院生が研究代表者として申請することは認めませんが、研究メンバーとして参加することは可能です。

※ 研究組織の変更

研究代表者の変更、研究分担者の追加等が必要となる場合は、変更・追加する者の氏名・所属・職名、及び理由等を事前に受入教員に連絡願います。

4. 研究期間

令和9年4月1日～令和10年3月31日の1年間

（継続のための再応募は妨げないが、同一課題での継続は3年を上限とする）

同一の申請者における重複申請の制限

採択された場合、本センターが別途公募する共同研究に申請できない場合があります。センターで採択されている共同利用・共同研究の課題があり、令和8年度に継続申請する予定がある場合には重複申請の制限があることについて十分ご注意ください。

5. 申請方法

- （1）申請書等の各様式は、つくば機能植物イノベーション研究センター遺伝子研究部門（遺伝子実験センター）及びPSCAのホームページからダウンロードしてご使用ください。

ホームページ： <https://psca-jurc.com>
<https://gene.t-pirc.tsukuba.ac.jp/joint/recruitment/>

(2) 申請にあたり、事前につくば機能植物イノベーション研究センター形質転換植物デザイン研究拠点構成教員及びPSCA関連教員(別紙1：受入教員表)へ相談のうえ、申請書(様式1)の1ページの該当欄に記載ください。

T-PIRC構成教員一覧：<https://gene.t-pirc.tsukuba.ac.jp/joint/members/>

6. 申請書提出書類及び期限

- ・ アライアンス・プラチナ枠共同研究申請書1部
- ・ 承諾書1部(研究代表者及び研究分担者の所属長が作成したもの。公印不要)

上記の必要書類を令和8年10月16日(金)までに電子ファイル(PDF)にて下記アドレスへお送りください。

7. 申請書送付先

E-mail：ptrad@un.tsukuba.ac.jp

原本は大切に保管してください。

8. 採択件数

アライアンス・プラチナ枠(Pタイプ)：若干数

9. 採択結果

共同利用・共同研究課題の採否は、アライアンス・プラチナ枠選考会議後、令和8年11月末に審査結果を電子メールにて内定通知します。採択決定通知は学外の学識経験者を含む形質転換植物デザイン研究拠点運営協議会において決定後、令和9年3月下旬までに、申請者へ直接通知します。

なお、公募申請書類の採択審査によっては申請区分あるいは研究グループの変更を条件とする場合があります。採択となった共同利用・共同研究課題の研究代表者は、別途指示する所定の書類を提出していただきます。また、共同利用・共同研究課題実施にあたり、つくば機能植物イノベーション研究センターにて遺伝子組換え実験を実施する課題担当者においては、本学の遺伝子組換え実験安全管理規定に則り、本学主催の遺伝子組換え実験従事者講習会を受講していただきます。

10. 所要経費

- ① 共同利用・共同研究に必要な経費（研究用消耗品及び旅費）のみ支出いたします。
- ② 共同利用・共同研究に必要な旅費は、本学の旅費規則に基づき算出し、精算払いとします。

11. 研究成果の報告について

アライアンス・プラチナ枠共同研究課題の研究代表者は、研究期間終了後から令和10年3月31日（金）までの間に所定の書式の共同研究報告書を各受入担当教員へ提出してください。

研究期間中あるいは終了後に、本拠点が主催する研究成果報告会にて、共同利用・共同研究課題の研究成果の報告を求めることがあります。（令和10年度開催の植物研究拠点アライアンス交流会（例年5～6月開催）において、オンラインでの成果発表を行っていただく予定です。）

12. 論文の提出

アライアンス・プラチナ枠共同研究課題の成果を論文等として発表する場合は、謝辞として「植物研究拠点アライアンス共同研究及び筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター（T-PIRC）形質転換植物デザイン研究拠点事業における共同利用・共同研究（英語表記例：This research was supported in part by Cooperative Research Grant #XXXX of the Plant Science Core Alliance (PSCA) and the Plant Transgenic Design Initiative (PTraD) by Tsukuba-Plant Innovation Research Center (T-PIRC), University of Tsukuba), ○○ University,) による旨の文章を記載ください。その際、掲載ページ等をお知らせください。

※大阪公立大学附属植物園の利用がある場合は記載方法が一部異なりますので、記載する文言については担当に事前にご確認願います。

※当該論文ないし報告等の別刷または写し1部を本センターに提出してください。また、研究成果の発表の際には、可能な限りアライアンスのロゴマークを付記してください。

（ロゴマークは、次のURLからダウンロードしてください。）

<https://www.alrc.tottori-u.ac.jp/japanese/activity/kyoudo/psca-logo.html>

13. 知的財産権の取扱い

本共同研究によって知的財産を創出した場合は、出願等を行う前にセンター共同研究教員及び研究分担者にご連絡ください。併せて、所属機関の知財担当部署へのご連絡をお願いいたします。権利の持ち分、出願手続き等については、協議の上決定します。

14. その他

- 1) 本学以外の共同研究員が研究を遂行する際に受けた損失、損害に関しては、原則として各所属機

関で対応するものとし、本学は一切の責任を負いません。また、学生が共同研究に参画する場合は、傷害保険「学生教育研究災害傷害保険」等に参加させてください。別途、保険証書の写しの提出を求められることがあります

2) 申請にあたり、ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

また、各拠点の概要、活動内容等の詳細については、ホームページをご覧ください。

筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター 遺伝子研究部門

〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1

電話：029-853-6006 FAX：029-853-7723

メール：ptrad@un.tsukuba.ac.jp

HP：<https://www.t-pirc.tsukuba.ac.jp/>

大阪公立大学附属植物園 拠点事務担当

〒576-0004 大阪府交野市私市2000

電話：072-891-2059 FAX：072-891-2101

メール：gr-bg-res@omu.ac.jp

HP：<https://www.omu.ac.jp/bg/>

鳥取大学国際乾燥地研究教育機構会計係

〒680-0001 鳥取県鳥取市浜坂1390

電話：0857-30-1010 FAX：0857-29-6199

メール：j_research@ml.alrc.tottori-u.ac.jp

HP：<https://www.alrc.tottori-u.ac.jp>

岡山大学資源植物科学研究所 共同研究担当

〒710-0046 岡山県倉敷市中央2-20-1

電話：086-434-1247 FAX：086-434-1249

メール：kyodo1247@adm.okayama-u.ac.jp

HP：<https://www.rib.okayama-u.ac.jp/>

琉球大学知創推進部 研究推進課共同利用施設第一係

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

電話：098-895-8036 FAX：098-895-8185

メール：knkuodor@acs.u-ryukyu.ac.jp

HP：<https://tbc.skr.u-ryukyu.ac.jp/>

別紙1 令和9年度各拠点における共同研究受入教員・専門分野、研究内容及び連絡先一覧

(筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター)

教 員	専門分野	研究内容	メールアドレス …@u.tsukuba.ac.jp
教 授 菊池 彰	植物生理学	植物の環境ストレス耐性、ジャガイモの塊茎形成に関する研究	kikuchi.akira.ft
教 授 柴 博史	植物遺伝学	オミクス解析による植物の生長・発生に関わる制御機構の解明	shiba.hiroshi.gm
教 授 壽崎 拓哉	植物分子遺伝学	植物微生物共生及び植物の環境応答機構の解明	suzaki.takuya.fn
教 授 福田 直也	蔬菜・花卉学	野菜類における機能性物質蓄積制御機構の解明	fukuda.naoya.ka
教 授 松倉 千昭	作物学・植物生理学	果実代謝生理、糖転流制御、バイオスティミュラント等	matsukura.chiaki.fw
教 授 三浦 謙治	植物分子生物学	植物による有用タンパク質生産及び植物におけるゲノム編集汎用化技術の構築	miura.kenji.ga
准教授 康 承源	蔬菜・花卉学	花卉植物の芳香成分解析及び生合成関連遺伝子の機能解明 果菜類のストレス耐性(耐暑性,耐寒性,耐病性など)に関する研究	kang.seungwon.ga
准教授 Diana Buzas	植物分子遺伝学, エピジェネティクス	長期細胞記憶、多年生作物と野生植物	buzas.mihaela.ka
助 教 小口 太一	植物分子・生理/植物 バイオテクノロジー	植物の環境応答機構/バイオマス増産	oguchi.taichi.ge
助 教 野崎 翔平	植物生化学	生化学的解析による植物シグナル伝達機構の解明	nosaki.shohei.ff
助 教 野中 聡子	植物分子育種	ゲノム編集技術を利用した作物の開発、果実発達生理解析	nonaka.satoko.gt

(大阪公立大学附属植物園)

教 員	専門分野	研究内容	メールアドレス …@omu.ac.jp
大学院理学研究科 教授 名波 哲	植物生態学	植物の多様な性表現と個体群維持機構に関する生態学的研究	snanami
大学院理学研究科 教授 伊東 明	植物生態学	植物の更新過程と多種共存機構に関する群集生態学的研究	itoha
大学院農学研究科 教授 岡澤 敦司	植物バイオテクノロジー 作物保護化学	植物による有用物質生産と生物機能などの利用による作物保護に関する研究	j21191y
大学院農学研究科 教 授 平井 規央	昆虫生理・生態学 保全生物学	希少種の保全、有害動物・昆虫の管理に関する研究	hirai
大学院理学研究科 准教授 小口 理一	植物生理生態学	環境の変化に対する植物の多様な応答について物質生産の視点から研究	oguchi
大学院理学研究科 准教授 厚井 聡	植物進化形態学	極限環境に適応した植物の形態進化に関する進化発生学的研究	skoi
大学院理学研究科 准教授 吉川 徹朗	群集生態学	生態系における多様な生物間相互作用の構造と機能に関する研究	yoshikawa_t
大学院農学研究科 准教授 上田 昇平	動物生態学	動物の進化と種多様化における種間相互作用の役割の解明	sueda
大学院理学研究科 特任助教 野田 博士	植物系統分類学・ 島嶼生物学	植物の形態形質と遺伝情報に基づいた系統分類学的研究、および染色体変異と地理的隔離による種分化機構の解明	g26825v

(鳥取大学乾燥地研究センター)

教 員	専門分野	研究内容	メールアドレス ..@tottori-u.ac.jp
教 授 岸井 正浩	植物遺伝育種学	野生種の強ストレス耐性・新規形質活用による作物改良	mkishii
教 授 木村 玲二	気象学	大気境界層内における気象現象の観測と物理的解明	rkimura
教 授 黒崎 泰典	ダスト気候学	ダスト（黄砂）の時間空間分布。風、土壌・地表面状態とダスト発生（風食）の関係	kuro
教 授 坪 充	気候リスク管理学	乾燥地における農業気象と気候変動対応型農業	tsubo
教 授 藤巻 晴行	乾燥地灌漑排水学	節水灌漑、ウォーターハーベスティングと塩類集積対策	fujimaki
准教授 安 萍	植物生理生態学	乾燥地における農業生産の向上および植生の回復	an.ping
准教授 石井 孝佳	植物細胞遺伝学	染色体工学による新規作物改良技術の創造	ishii.t
准教授 井芹 慶彦	水文学	乾燥地・半乾燥地における水文気象モデリング	y.iseri
准教授 谷口 武士	微生物生態学	乾燥地で生育する植物共生微生物の生態学と生態系修復	takeshi
准教授 寺本 宗正	陸域炭素循環学	土壌炭素フラックスを中心とした物質循環に関する研究	teramoto.m

(岡山大学資源植物科学研究所)

教 員 (★：グループリーダー)	専門分野	研究内容	メールアドレス …@okayama-u.ac.jp
教 授 坂本 亘 ★	植物分子生物学、遺伝学	光合成と葉緑体の環境応答	saka
准教授 松島 良	澱粉科学	澱粉生合成についての基盤研究と澱粉変異の育種利用	rmatsu
助 教 小澤 真一郎	植物生化学、生理学	タンパク質科学に基づいた光合成の環境応答機構の解明	OzwSh1r
助 教 桶川 友季	植物生理学	光環境ストレス下における植物の光障害防御機構の解明	okegawa
教 授 平山 隆志 ★	植物分子生物学	高等植物のストレス応答の分子遺伝学的研究	hira-t
准教授 森 泉	植物生理学	気孔運動や葉内 CO ₂ 拡散の生物物理学的解析	imori
准教授 池田 陽子	植物分子遺伝学	植物におけるエピゲノム制御のメカニズムおよび環境との相互作用	yikeda
助 教 力石 和英	植物分子遺伝学	コムギ種子休眠制御の解明	riki
教 授 馬 建鋒 ★	植物栄養学	植物のミネラル輸送と制御	maj
准教授 山地 直樹	植物分子生物学	植物の無機栄養素分配機構とその調節・制御機構の解明	n-yamaji
准教授 三谷 奈見季	植物栄養学	植物のミネラル輸送体とその制御機構に関する研究	namiki-m
助 教 小西 範幸	植物栄養学	ミネラル輸送体の翻訳後制御機構の解析	Noriyuki_Konishi
教 授 且原 真木 ★	植物生理学、植物栄養学	塩ストレス応答や水輸送制御の分子および生理学的機能解明	kmaki
准教授 佐々木 孝行	植物分子生物学、植物栄養学	植物特異的リンゴ酸輸送体による環境ストレス適応	tsasaki
助 教 宇都木 繁子	植物分子生物学	種子形成過程におけるアクアポリンの水輸送調節メカニズムの解析	utsugi

教 員 (★：グループリーダー)	専門分野	研究内容	メールアドレス …@okayama-u.ac.jp
教 授 木羽 隆敏 ★	植物栄養学、植物分子生物学	植物の多量無機栄養応答の分子機構	kiba
准教授 近藤 秀樹	ウイルス学	農作物生態系におけるウイルス多様性とその生態学的な存在意義	hkondo
准教授 兵頭 究	植物病理学、ウイルス学	植物ウイルスの複製機構	khyodo
教 授 GALIS IVAN ★	化学生態学、植物-昆虫相互作用学	植食性昆虫に対する植物防御の分子機構の解析	igalis
准教授 新屋 友規	植物免疫学、植物-昆虫相互作用学	植物の植食性昆虫による食害認識機構の解析	shinyat
教 授 河野 洋治 ★	植物分子生物学、植物免疫学	免疫受容体と植物サイトカインを基盤とした植物免疫の理解	yoji.kawano
WTT 助教 深田 史美	植物病理学、微生物学	植物病原糸状菌の感染生理および植物との相互作用の解析	fumi.fukada
准教授 谷 明生 ★	応用微生物学	植物共生細菌の分離同定・非培養的解析・メタノール資化性細菌	atani
准教授 植木 尚子	植物分子生物学、遺伝子工学	赤潮原因藻ヘテロングマの生態生理と増殖制御に関する研究	pdst7bim
教 授 久野 裕 ★	植物分子育種、植物遺伝資源	遺伝資源と遺伝子改変技術を利用したオオムギの有用遺伝子の同定	hiroshi.hisano
准教授 最相 大輔	植物育種、植物分子遺伝、集団遺伝	作物の遺伝的多様性を農業生態系への適応分化の観点から理解する	saisho
助 教 山森 晃一	植物遺伝育種学	薬と花粉に注目したオオムギの遺伝育種学的研究	k.yamamori
教 授 武田 真 ★	植物遺伝育種学	オオムギの種子および植物形態に関する遺伝生理学的研究	staketa
助 教 山下 純	系統分類学	野生植物遺伝資源の収集、保存、系統分類及び絶滅危惧種保全研究	junyama
教 授 山本 敏央 ★	作物育種学	多様なイネ遺伝資源が持つ有用農業形質の探索と活用	yamamo101040
准教授 長岐 清孝	分子細胞遺伝解析学	動原体の解析および細胞遺伝学的エピジェネティック解析	nagaki
准教授 古田 智敬	植物遺伝育種学	育種を加速させるバイオインフォマティクスツールの開発と利用	f.tomoyuki

(琉球大学熱帯生物圏研究センター)

教 員	専門分野	研究内容	メールアドレス (...@cs.u-ryukyu.ac.jp)
教 授 瀬尾 光範	植物生理・分子生物学	植物ホルモンの作用メカニズム、種子の休眠と発芽の制御メカニズム	mseo
准教授 岩崎 公典	遺伝資源応用学	ファイトケミカルの併用による新たな代謝調節誘導に関する研究	hiwasaki
教 授 高橋 俊一	サンゴ礁生物機能学	サンゴと褐虫藻の共生に関する研究	tshun
教 授 梶田 忠	マングローブ学	マングローブ植物の系統地理学的研究、熱帯植物の系統分類学的研究	kajita
准教授 渡辺 信	マングローブ学	空撮と 3D モデリングを用いたマングローブ生理生態研究	nabeshin
准教授 内貴 章世	多様性生物学	アカネ科を中心とした被子植物の植物系統分類学的研究	naiki